

## 経済レポート

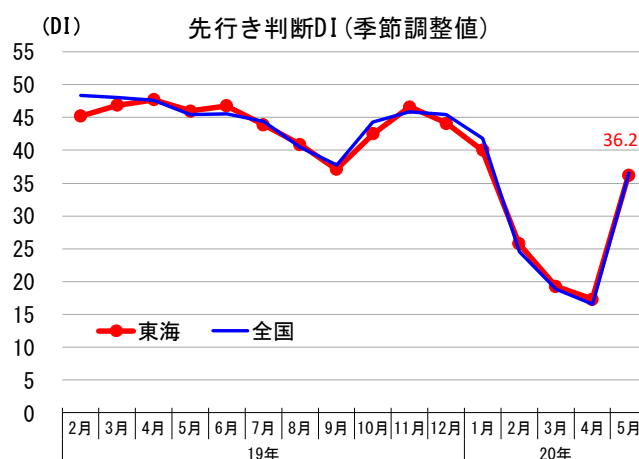
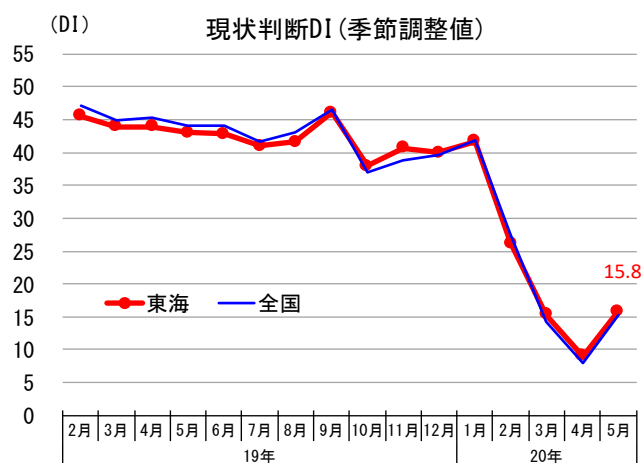
# 景気ウォッチャー調査(東海地区:2020年5月)

～ 緊急事態宣言解除で、DIが上昇～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 6月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の5月<sup>1</sup>の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差+6.8ポイントの15.8と4ヵ月ぶりに上昇した。**  
**先行き判断DI(季節調整値)は、前月差+18.9ポイントの36.2と6ヵ月ぶりに大幅な上昇となった。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

**コロナウイルス感染症の影響により極めて厳しい状況にある中、緊急事態宣言の解除もあり底打ちから改善の動きがみられる。先行きについては、厳しい状態がつづくものの改善が見込まれる。**

とまとめた。

(前月のまとめ)

「緊急事態宣言下、新型コロナウイルス感染症の影響による悪化が続いており、極めて厳しい状況にある。先行きについては、一段の悪化が懸念されている。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

**新型コロナウイルス感染症の影響により、極めて厳しい状況にあるものの、悪化に歯止めがかかりつつある。先行きについては、厳しさが続くものの、持ち直しへの期待がみられる。**

とまとめている。

(前月のまとめ)

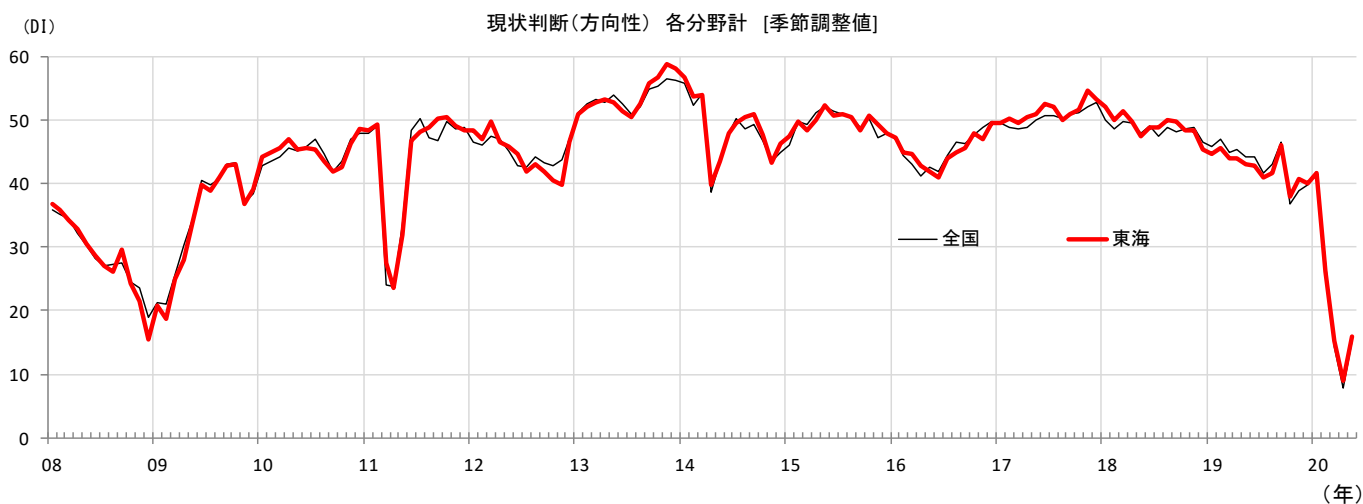
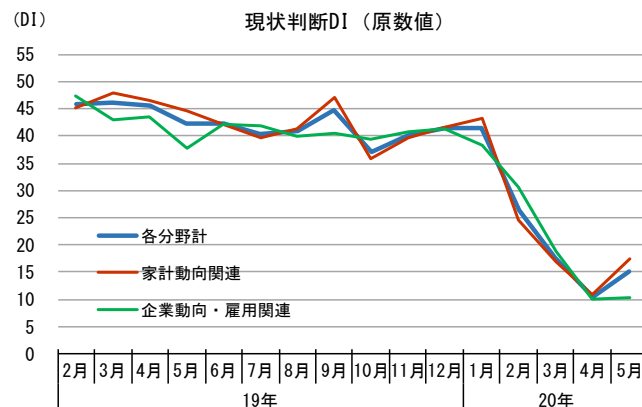
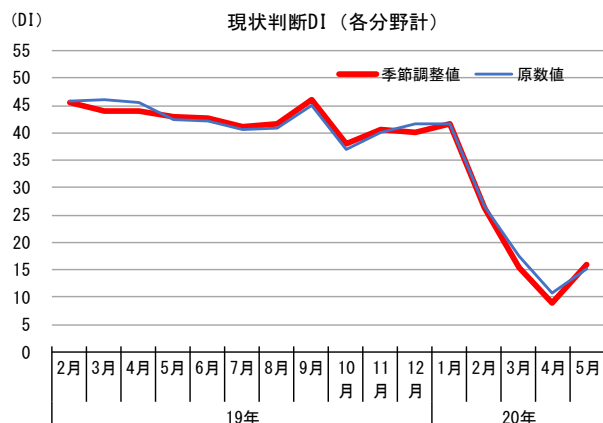
「新型コロナウイルス感染症の影響により、極めて厳しい状況にある中で、さらに悪化している。先行きについては、厳しさが増すとみている。」

<sup>1</sup> 調査期間は毎月25日～月末

## 1. 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

### (1) DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI<sup>2</sup> (季節調整値)は、前月差+6.8ポイントの15.8と4ヶ月前ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を26ヶ月連続で下回った。5月25日に緊急事態宣言が解除されたこともあり、厳しい状況が続くもののDIは改善した。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同+6.6ポイントの17.5と4ヶ月前ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を25ヶ月連続で下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDI<sup>3</sup>は、同+0.4ポイントの10.4と5ヶ月前ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を18ヶ月連続で下回った。



<sup>2</sup> 本調査のアンケート・サンプル総数は233、うち家計関連154、企業・雇用関連79。以下、先行き判断についても同様。

<sup>3</sup> 企業動向関連と雇用関連からなるDI (原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

## (2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

**【家計動向関連】**

- ▶ 緊急事態宣言の解除により、「やや良くなっている」「変わらない」との回答が増えたが、内容は厳しいものが多い。

○	高級レストラン(経営企画)	緊急事態宣言の解除により、徐々に来客数が増えてきているが、元の状態には程遠い。
□	一般小売店[土産](経営者)	緊急事態宣言は全国的に解除されたが、新型コロナウイルスが終息したわけではない。今後は第2波を覚悟の上で良識ある行動をとらなければならない。

- ▶ 数は多くないが、外出自粛が売上増につながっている業種もある。

○	スーパー(店長)	外出自粛の中、百貨店や外食産業の休業、営業時間短縮もあり、ゴールデンウィーク期間中は4月より更に来客数、売上点数共に増加し、売上は伸びた。
○	家電量販店(店員)	暑さもあり、エアコン、冷蔵庫が好調を維持している。また、ゴールデンウィークで旅行等に金を使わなかったことや外出をしないことにより、テレビやゲーム機の売上が好調に推移している。

- ▶ 数の上では、緊急事態宣言解除後も方向感は悪化が続いているとの回答が多い。

▲	乗用車販売店(経営者)	新型コロナウイルスによる外出自粛により車ででの外出が減ったため、事故件数が激減し修理車両が入庫してこない。また走行距離が少なくなり、オイル交換の客も来店しない。毎日通常営業しているが、全体的に仕事量が少なくなっている。
▲	美顔美容室(経営者)	新型コロナウイルスの休業要請は解除されたが、まだ心配で来店を控える客が割と多く、来客数は減少している。
×	商店街(代表者)	緊急事態宣言における外出自粛要請のため、来客数はゼロ、売上も物販についてはほぼない状態である。緊急事態宣言解除後も特に変化はなく、危機的な状況が続く。
×	百貨店(経理担当)	緊急事態宣言が解除され需要の回復には期待できるが、全世界的に制限が解除されない限り、本格的な需要回復には至らない。

**【企業動向・雇用関連】**

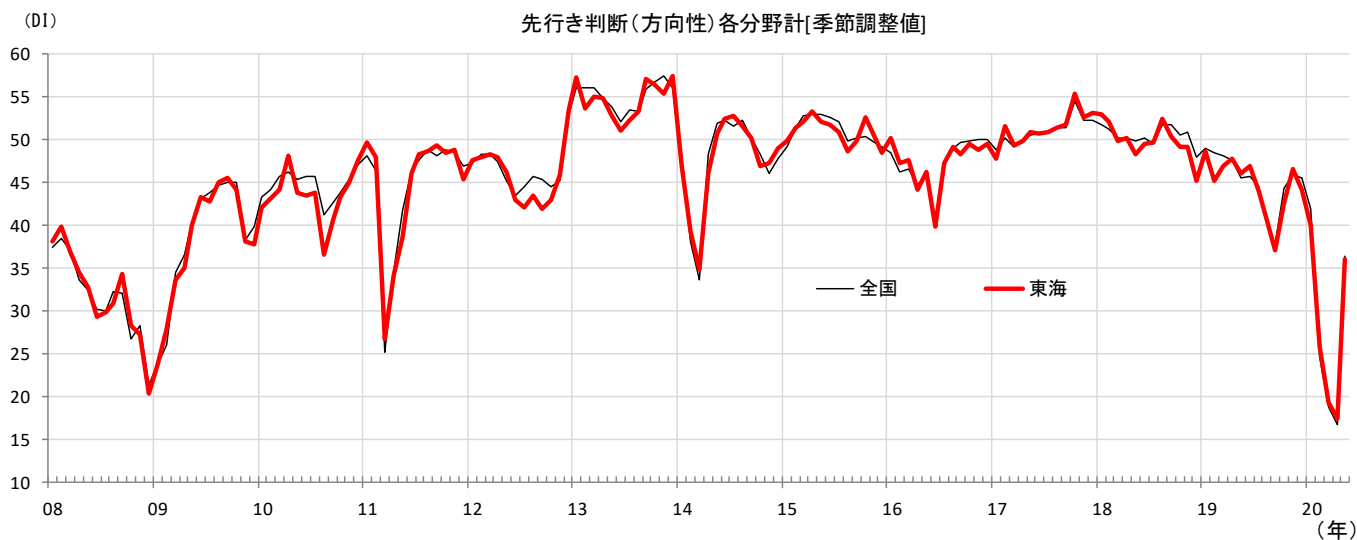
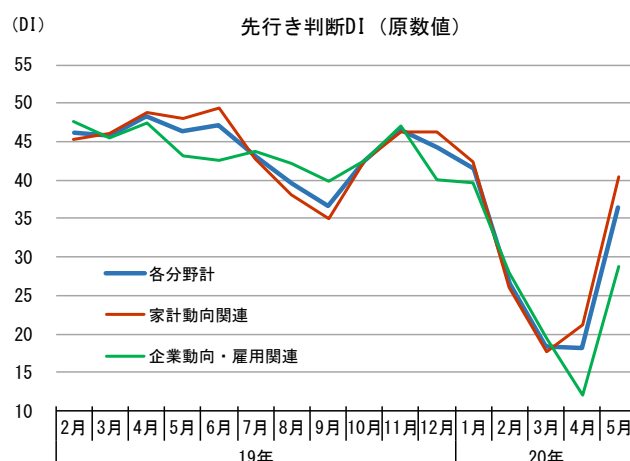
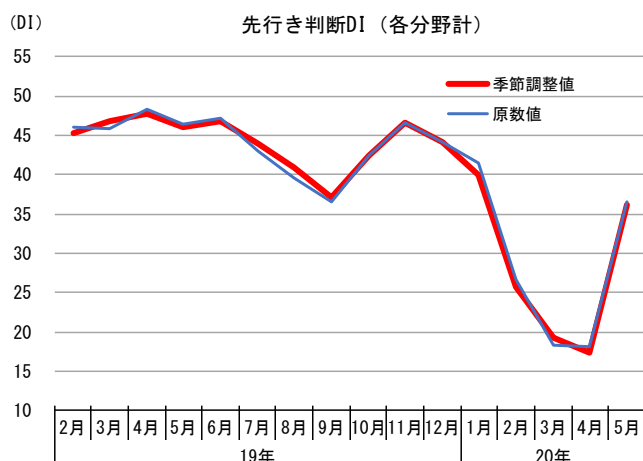
- ▶ 家計動向関連に比べ、悪化方向のコメントの比重が高い。世界経済の停滞が自動車関連を中心とした企業部門の悪化につながっている。求人減少を指摘するコメントも多い。

□	一般機械器具製造業(営業担当)	主力市場である北米で自動車部品メーカーが軒並み生産中止や自宅勤務となり、引き合いも受注も全くない状態である。
×	輸送用機械器具製造業(品質管理担当)	現在、米国の経済状態が悪いため、派遣切りが始まっている。
×	輸送用機械器具製造業(経営者)	5月の売上が例年の6割程度、6月も7割程度である。5月分も、取引先の予定で納入途中に減る可能性がある。海外向けの製品は軒並み悪く、米国向け、中国向け共に下がったままで推移している。
×	輸送用機械器具製造業(総務経理担当)	新型コロナウイルスの影響で完成車メーカーのラインが止まっており、部品会社は生産量が減少している。
×	新聞社[求人広告](営業担当)	求人数がここに来て急激に減少している。特に非正規雇用の募集が全くなくなっている。
×	職業安定所(職員)	前年同月、3~4月の職業別新規求人の提出状況と比べてみても、ほぼ全ての職業で減少しており、特にサービス業の減少幅が大きい。

## 2. 景気の先行き判断 (2~3ヶ月先の見通し、方向性)

### (1) DIの動向

- 2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI (各分野計: 季節調整値) は、前月差+18.9ポイントの36.2と大幅に上昇(6ヶ月ぶり)したが、横ばいを示す50を20ヶ月連続で下回った。緊急事態宣言の解除により、先行きの改善を見込む回答が増えたが、厳しい状況が続くとの見方が多い。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同+19.3ポイントの40.4と2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を16ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同+16.8ポイントの28.8と6ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を20ヶ月連続で下回った。



## (2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなる、○:やや良くなる、□:変わらない、▲:やや悪くなる、×:悪くなる

**【家計動向関連】**

- ▶ 緊急事態宣言が解除されたことにより、急速な改善はないまでもこれ以上の悪化もないだろうとのコメントが増えた。

○	商店街(代表者)	新型コロナウイルスの緊急事態宣言が解除されたため、少しは動きが良くなる。この数か月で金が流出してしまった人や会社も多いため、大きな回復は見込めない。
○	百貨店(営業担当)	新型コロナウイルスの一時収束により、経済活動が再開されて現在よりは改善すると見込まれるが、第2波も懸念され、完全には戻らない。
○	家電量販店(フランチャイズ経営者)	今がかなり悪いので、これ以上の落ち込みはないと考える。新型コロナウイルスの第2波の影響が出なければ、政府のバラキ施策の効果が現れて、現状よりは少し良くなるのではないかと見込む。ただし、前年の売上は超えそうにない。
□	衣料品専門店(売場担当)	緊急事態宣言が解除されたことにより街中の人通りも増え、景気回復を期待したい。しかし、実際は多くの国民が新型コロナウイルスの第2波到来を不安視しており、現状維持が精一杯で回復は見込めないと見込まれる。

- ▶ 緊急事態宣言解除後も悪化が続くとのコメントもまだ多い。

▲	一般小売店[生花](経営者)	緊急事態宣言は解除になったものの、第2波が来ることも否定できないため、生活必需品以外の業種の景気は更に悪くなると見込む。収入も減り、節約志向が高まることを懸念する。
▲	百貨店(売場主任)	来月はクリアランスセール準備が始まるが、人が密集する前年のやり方はできない状況のため、売上は厳しくなる。
×	百貨店(総務担当)	新型コロナウイルスにより、消費マインドがリーマンショック以上に急激に落ち込んでいる。外出できる安心感がなかなか回復せず、家の中や身近での消費が多くなることが見込まれ、来店型の百貨店としては非常に厳しい状況が続くものと想定する。
×	乗用車販売店(従業員)	客からは、仕事が再開されても今後ボーナスが減るのではと思うと今は車を検討するような気分にはなれないと言われるように、客の購買意欲は弱くなっており、まだしばらくは回復してこないように見受けられる。

**【企業動向・雇用関連】**

- ▶ 家計部門に比べると、先行き厳しい状態が続くとの見方が目立つ。

□	輸送業(従業員)	緊急事態宣言が解除されても以前のような受注量に急に戻るとは考えにくい。客の中には既に経営状態が悪くなっているところもあると聞く。
▲	輸送用機械器具製造業(経営者)	取引先のラインで新型コロナウイルス感染症が数件発生し、ラインストップが1週間あった。緊急事態宣言の解除で同じようなことが起きる可能性もある。当分の間、欧米の生産状況が変化するとは思えない。
×	鉄鋼業(経営者)	自動車を始めとするモノづくり企業の工場で、一時帰休が5月から本格化している。この影響が出るのは6月以降となり、今よりも減少幅が広がるのは必至である。

- ▶ 事業環境が厳しくなる中、雇用環境の悪化を見込む声が多い。

□	人材派遣会社(営業担当)	まだまだ新型コロナウイルスの影響は収まらず、企業は派遣利用に二の足を踏むと考える。職種にもよるが、1年ほどは求人数は増えないと見込む。
×	新聞社[求人広告](営業担当)	緊急事態宣言解除後の動きが読めず、手探りの活動再開になる。雇用調整をせざるを得ないところは多いと考える。



## 景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
  - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
  - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
  - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
  - (1) 景気の状態に対する判断（方向性）
  - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
  - (3) 景気の状態に対する判断（水準）
 (1) (2) については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて D I を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、D I は 50 となるため、D I = 50 が景気の状態を示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0. 7 5	+ 0. 5	+ 0. 2 5	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府 HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

### － ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。